

## 登園時の一コマ

園長 山中 文

登園時に正門で園児を迎えていますと、ご挨拶と一緒にいつも葉っぱを2、3枚見せてくれる園児がいます。その子どもは、歩いては立ち止まり、木の下をのぞきこんだり葉っぱを拾ったりで、幼稚園にはゆっくりゆっくりたどり着きます。たどり着くと、厳選して拾った葉っぱを自慢そうに見せてくれます。

4月から見せてくれる葉っぱは、大きい葉っぱだったり、緑の濃い葉っぱだったりと色々変化していましたが、秋になってきて、色づいた葉っぱになってきました。気がつけば、その葉っぱは、毎回違うのです。きっと彼の中では、また新しい葉っぱを見つけた、という気持ちなのかと思います。

そして、素敵なのは、毎日それに付き合っただ登園してくださるお母様です。彼がのぞきこむ時はお母様も一緒にのぞきこみ、拾った葉っぱを見ながら一緒にお話ししています。彼が私に見せに来る時も、後ろでにこにここと付き添ってくださっています。頃合いを見計らって、「じゃあ〇〇先生(担任)にも見てもらおうね」と声をかけ、お二人でクラスに向かいます。「葉っぱの博物館ができそうですね」とお話しすると、「そうなんですよ」と嬉しそうに答えてくださいました。

子どもの発見を認め、上手に子どもの気持ちに寄り添われている様子を見ると、登園の時間の大切さをつくづく感じます。乳幼児期の非認知能力の重要性が言われていますが、こういう一コマ一コマがそれを培っているのだということに気づかされます。

登園スタイルはさまざまなので一様には言えませんが、登園の時だけでなく、一緒に歩いたり一緒に見てことばをかわしたり一緒に歌ったりするのは、その子どもだけでなく、親にとってもいいものです。ずっとあとから、思い出しては微笑むことができる幸せな時間になりますよ。

そうそう、この園児は、保育中のある時、粉々になってしまった枯葉を大事そうに集めていました。『おお、枯葉も集めるのか』と思い、「たくさん集めたね」と声をかけると、「これは、カブトムシの幼虫に敷いてあげるんだ」とのことでした。『うーん、虫にも強いのかあ』と脱帽です！

